

クマゲラ

札幌市は180万人もの人口を抱える北海道一の大都市であります。北に開いた凹形の三方を山林に囲まれています。凹のほぼ真中を南から北に豊平川が流れています。凹の底の部分が厚く都心から直線距離で40㎞離れた中山峠を分水嶺とします。この川の集水域は殆ど森林であります。大部分が国有林で天然林風景もなかなかよろしいのであります。

森林ボランティアの育林作業で森に入りまして、天然記念物として希少といわれるクマゲラが札幌市の三方の森ともに出没しているのを確認したのであります。東側から有明市有林、南側澄川市有林、西側藻岩山国有林、三角山斉藤リンゴ園等です。最も近い例の写真を紹介します。札幌市西区山の手の手の斉藤リンゴ園の作業中、望遠なしでわが会員山原さんによって撮影された写真であります。人懐こいというか、都会ズレしているというか・・・。



クマゲラは日本最大のキツツキであります。いや、もしかすると世界最大かもしれません。大きさはハシボソガラスより心もち小さく、ややスリムですが、ドバトよりは大きいのです。ほぼ全体が黒地ですが、頭頂に赤をあしらいます。赤の面積の大小で雌雄の区別が出来ます。大が雄、小が雌であります。

キツツキのことをゲラとよびます。北海道に生息するキツツキの仲間はクマゲラ、ヤマゲラ、アカゲラ、コアカゲラ、コゲラ等々で、〇〇キツツキという呼称をいたしません。

泣き方に共通のイントネーションを感じます。一声聞いただけでゲラだと判ります。クマゲラとアカゲラの区別もできます。さらに立ち枯れ枝や幹を突いて音を響かせるドラミングをやりますが、このテンポが図体の大きさに反比例します。これも聞きなれると種類の区別ができます。

会員の関さんが起こした石狩市の森林ボランティアが団の愛称をクマゲラとしました。当会はエゾフクロウをシンボルマークとしましたが、クマゲラも北海道を象徴する森の鳥、かつ大型の鳥であります。森林ボランティアにふさわしいネーミングであります。

北海道ゆかりの歌人石川啄木、啄木はキツツキの漢字表記であります。石川さんはキツツキが好きだったのでありましょう。私も好きであります。

ビクマの出没が連日報道されるこの頃ですが、北大恵迪寮伝統のストームの歌は冒頭から"サッポロ農学校は蝦夷が島、クマが棲む、・・・"と始まります。クマ様やクマゲラ様のテリトリーに人間がお邪魔をしているということを肝に銘じるべきで、一步森に踏み込みますと、まだ明治に劣らぬ自然が保たれていることを誇りに思うクマゲラ、ヒグマの出没現象なのであります。